

各都道府県支部と本部を結ぶ

令和4年3月1日

随時発行

全国小売酒販政治連盟

東京都目黒区中目黒 2-1-27

Tel 03 (3714) 0172

※速報版のため事後修正の可能性有り

酒政連だより

## 議連総会→官房長官要望→総理答弁へ 参議院予算委員会で藤末議員が質問



参議院予算委員会 総理答弁の様子

2月28日 参議院予算委員会において、藤末健三議員（参・比例代表）が岸田総理に対し、酒類業者の窮状を訴え、支援の実施を求める答弁を行いました。

2月9日 自民党「街の酒屋さんを守る国会議員の会」緊急総会での吉田会長をはじめとする全国の政治連盟役員の悲痛な声を受けて、議連として政府等への要望を行うことが決議され、①松野官房長官、山際経済再生担当大臣をはじめとする政府、②国税庁幹部への要望のほか、③酒政連大阪府支部、酒政連本部の働きかけにより柳本顕議員が酒類業者への独断の支援を国会で要請したのは既報の通りです。（既報：令和4年2月10日及び2月18日「酒政連だより」）

今般の総理答弁は、これら各方面への地道な要望・陳情を経て実現したものです。

「これまでと決して同じではない。」「息の根が止まってしまう。」現在の状況を、吉田会長を筆頭に役員、連合会長、職員が各方面へ訴えています。

業界団体としてこのような“声”を届け、必要な要望を行うために、本部事務局では水口常勤理事を筆頭に普段の信頼関係を活用した根回しを行っており、既報及び上記の公の会議での発言機会を得ました。

また、国会答弁や政府、党幹部等へのアポイントのためには、地元支部の協力も欠かせないため、日々の本部、支部（・支部長）間の緊密な連携のもと活動を行っています。

総理答弁の実現に際しては、水口理事より藤末議員へ、「限られた短い時間であることは理解しているが、どうにか酒販店の窮状について発言いただき、政府として酒販店への支援を検討していただきたい。」という強い要望。

答弁直前には吉田会長が藤末事務所を訪問し、「首の皮一枚つながっている酒販店の状況を、必ず総理へ伝えてほしい。」というやりとりがありました。

## 「酒販店の影響を見極め対応していく」 ぎりぎりの交渉の中、岸田総理の発言 引き出す



東京の大手業務用酒販店の売上減少率をフリップで説明。2020年4月以降売上は全てマイナス

藤末議員は、東京における大手業務用酒販店の売上減少率をフリップを用い、2020年4月以降、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置の発令の有無に関わらず、売上は2019年対比で全てマイナスであること総理へ説明しました。

動画は以下、参議院インターネット審議中継 ホームページから視聴することができます。

2月28日 参議院予算委員会 →発言者一覧から「藤末健三(自由民主党・国民の声)」を選択  
<https://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/detail.php?sid=6684>

スマートフォンからは、右のQRコードをカメラで読み込み視聴することができます。(機種によりご覧になれない場合は、上記方法にてパソコンよりご覧ください。)



#### 【藤末議員 岸田総理の答弁抜粋】

藤末議員: 街の酒屋さんの経営状況は、まん延防止措置により壊滅的な打撃を受けております。私は100件近い酒屋の現場の声を聴きました。昨年末やっとコロナ前の7~8割程度に持ち返したものが、いま2~3割にまで落ちている。そして飲食店の酒類提供制限がクローズアップされ、手厚い補償がでることは多々ありますが、しかし売るのがなくなったお酒を飲食店に卸す酒屋さんには補償がないということは理解できない事態です。  
「もう限界だ」という悲痛な声を、議員220名からなる「街の酒屋さんの守る国会議員の会」として松野官房長官にもお届けしています。是非、支援が必要と考えます。岸田総理のお考えをお聞かせください。

岸田総理: 新型コロナの再拡大によって酒類業界に大きな影響が生じていることは承知しております。新型コロナの影響を受けた事業者に対しては、売り上げが減少した事業者に対して地域、売り上げを問わず、最大250万円を一括支給する「事業復活支援金」を設置するとともに、今般のオミクロン株の感染拡大を受け、雇用調整助成金の特例をさらに3ヶ月延長する等、支援を行っています。まずはこうした支援により酒類販売業者の方々の事業と雇用を守っていきたいと思います。  
そして引き続き各種支援策を活用しつつ、今後の感染拡大による影響がどの程度長期化するか、また今後の飲食店向けの制限による酒類販売業者の売り上げへの影響がどのようになるのか、こうしたことを見極めつつ適切に対応して参りたい。

藤末議員: 総理が仰る聴く力でありますけど、実際に酒屋さんに伺って話を聞いていますと、もう悲鳴どころではなく、叫び声になっている。なぜ私たちだけがこんなに苦しめないといけないのかという声が聞こえてくる。そういう中でぜひ、対応していただきたいと思えます。

## 自民党 古屋政調会長代行へ 党としての対応を緊急要請

2月25日、街酒議連 田中和徳会長（衆・神奈川10区）、坂本哲志幹事長（衆・熊本3区）、吉田会長、水口理事は、自民党本部を訪問し、古屋政務調査会長代行へ、酒販店の大変な状況を踏まえ党としても支援を検討してほしい旨を緊急要請しました。

古屋政調会長代行からは、要請を受け「今日いただいた要望については、高市早苗政調調査会長へしっかりと伝える。」との発言がありました。



## 酒類業者独自の支援目指し 地元議員、自治体等へも要望を

酒政連・中央会へ、地元議員や自治体へ要望を行いたい旨のご連絡を多くいただいております。要望書のひな形を添付いたしますので、地域の状況を踏まえ追加修正いただきご使用ください。要望の結果、酒類業者独自の支援が実現した場合は、「酒政連だより」、「FAX旬報」等で事例として紹介いたします。